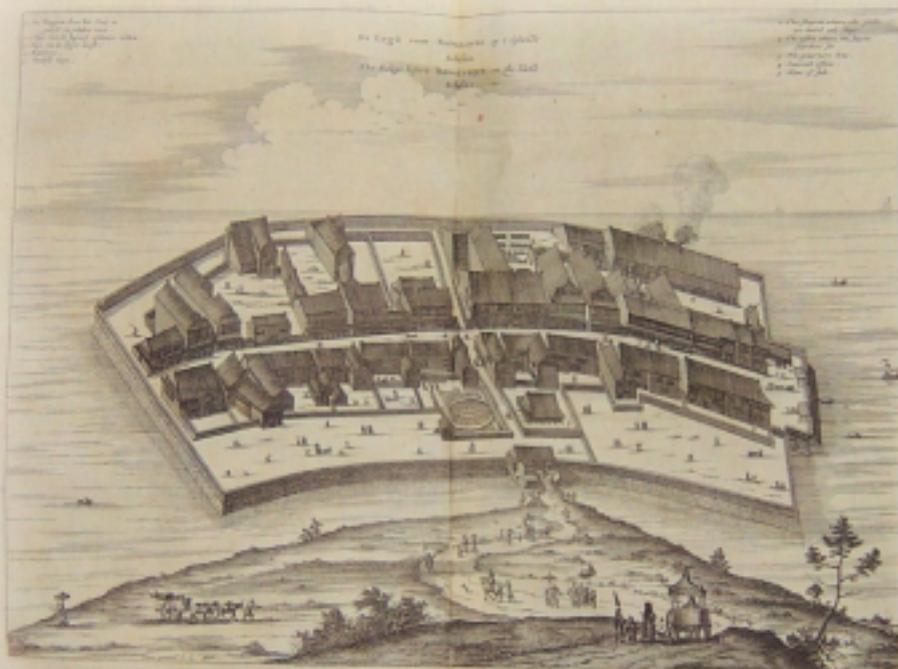


専修大学

図書館だより

第53号
2004. 7



モンタヌス著『日本誌』 長崎の前の出島の住居

目次

「法科大学院と図書館」(法科大学院長 平井 宜雄).....	2
シリーズ ムーサの神殿 貴重書紹介	3
図書館委員会委員による推薦本	4~5
データベース紹介「MAGAZINEPLUS 日外アソシエーツ」.....	6
統計から見る図書館の利用状況	6
各館トピックス	7
図書館インフォメーション	8

法科大学院と図書館

法科大学院長 平井 宜雄



本年4月、法科大学院の発足に伴い、同大学院の院生を主な対象とする図書館（法科大学院分館。以下「本図書館」と呼びます）が、新たに設置されました。設置場所は、専大通りに面した神田校舎8号館の6階で、そのフロアー全部を占めています。8号館は神田校舎から徒歩で僅か数分のところにありますが、法科大学院の専用棟として用いられているため、学内の方々にとっても気軽に立ち寄り場所とは言いきいかもれません。そこで、いささかの宣伝を兼ねて本図書館の紹介をしておきます。

ご承知のように、法科大学院は、「法曹養成に特化した実践的な教育を行う」大学院として設置されたものですので、当然ながら、その図書館は、法律家の養成という役割の一翼を担うことが要求されています。そして、現在の法律家がまず行う仕事は、解決に直面させられた法律問題についての法令・判例・法律専門誌の論文・官公庁や研究所の研究報告等の膨大な資料を、外国におけるものを含めて、収集し分析することです。特定の法律問題に関する最新かつ多量の情報を集中させて、短時間でそれに通暁するのが法律家の大事な能力となっています。これに対処すべく、本法科大学院も「法情報検索」という科目を開講しており、電子的な手段（オンラインデータベース・インターネット・CD/DVD-ROM等）を駆使して情報を収集する技術に学生を習熟させるのを狙っています。本図書館はこれらの電子的な手段を充

実させつつあり、「法情報検索」の授業の展開される格好の場となることは間違いありません。

もっとも、情報を集めただけでは法律家の仕事は終わりません。それをどのように組み立て直して実際に役に立つ道具に鍛え上げるのには、「脳の働き」が必要ですし、まして、これまでに全く論じられていなかった法律問題を解くには新たな理論を開発する能力が要求されます。そのためには、外国のものを含めて、定評あるモノグラフィーや学説史の一部になっているような優れた古典が揃っていることが必要です。この角度から見ると、本図書館は、現在のところ、物足りない感を与えるのは否めませんが、発足して間もないことを考えるとそれは当然です。しかし、神田分館を利用してそれを補うこともできますし、本図書館は7万冊を収める能力を持ちながら、まだ7千冊しか収められていない状況にあるということですから、将来においては、紙を媒体とする文献も充実していくことと思われます。

最後に一言しなければならないのは、本図書館の環境の素晴らしさです。完成したばかりの建物の中にあるわけですから、すべての調度・備品は新品の上に、空調設備も快適、おまけに、日本一の本屋街も近くに控えています。こうして、本図書館は情報の収集と新たな情報の発信の基地となることでしょう。教職員一同、そのために力を尽くしておりますので、ご支援のほどどうぞ宜しくお願い申し上げます。

（ひらいよしお：法科大学院教授）

シリーズ ムーサの神殿 貴重書紹介

ムーサの神殿：アレクサンドリアで美術館、博物館、図書館を表す言葉。

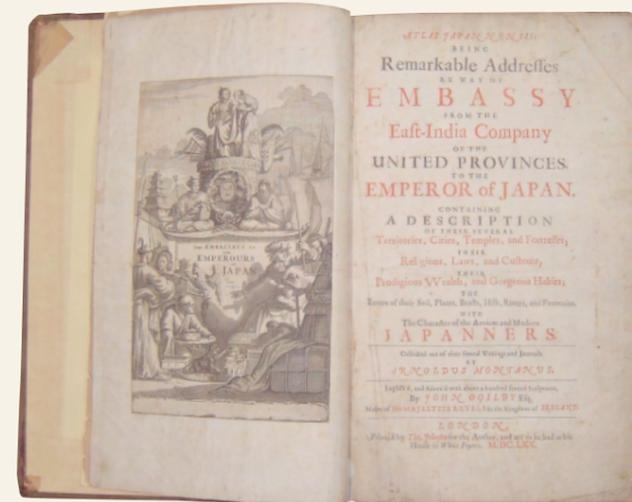
Atlas Japannensis

モンタヌス著『日本誌』

Montanus, Arnoldus (1625?-1683)

Atlas Japannensis : being remarkable addresses by way of embassy from the East-India Company of the United Provinces, to the Emperor of Japan.

London : Printed by T. Johnson for the Author, 1670.



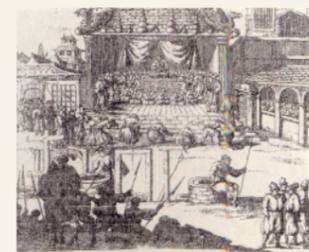
モンタヌス『日本誌』のタイトルは、いくつかあり『日本遣使紀行』『東インド会社遣使録』『オランダ東インド会社日本帝国遣使紀行』『オランダ連合東インド会社の日本皇帝への主要なる遣使』としても知られています。

ライデン大学に学んだカルヴァン派の牧師アーノルドス・モンタヌス（1625年頃 - 1683年）が、東インド会社から日本に遣わされたオランダ使節や宣教師の報告・日記など16、17世紀の膨大な資料をもとに、著述したものです。1669年アムステルダムで初版が刊行されると、同時に独訳、翌年に仏訳、英訳がそれぞれ刊行され、その後も抄訳を含む多くのものが刊行されました。日本語訳（大正14年刊）は、和田萬吉博士が英訳本を抄訳したものです。

大坂から江戸、大坂から長崎までの地図をはじめ、大坂城、出島図、キリスト教徒迫害図、明暦大火図など日本の風物を描いた多くの図版を含み、ケンペルの『日本誌』出現まで、鎖国下の日本に関する百科事典的な役割を果たし、西欧の“日本”像形成に多大な影響を与えた書といえます。

専修大学図書館はオランダ語版初版（1669）、ドイツ語版（1669）、英語版（1670）、フランス語版（1680）、日本語版（1925）を所蔵。

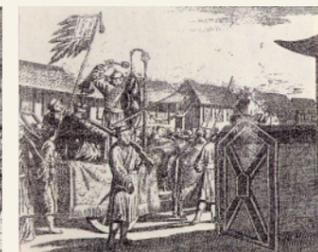
この度2004年4月に本学所蔵の英語版“Atlas Japannensis”と日本語版『日本誌』が復刻された。編集および『別冊解題・索引』の作成は、島田孝右本学商学部教授。書誌学的説明、索引、日本関係地図を掲載する英国の刊行物一覧、また日本語訳の折込地図がある。



イエズス会士とキリスト教取調べ



踏み絵「蘭人糞問せらる」



キリスト教の火あぶり宣言



キリスト教処刑

この本を読めば 世界が見えてくる

経済学部



「からかま なおよし：経済学部教授」
 日々、読書とは個人的かつ主体的な行為であると考えているので、万人に向かって推薦できる本などありえない、というのが私の意見である。また私が推薦した本を、「はい、そうですか」と読んでみる専大生が果たしているものだろうか。読書は一種の邂逅である。心の底から好きと思える本、好きと思える著者に会えた人は、それだけで人生の幸福を得た人と言わねばならない。経済学というマテリアルな学問を専攻している私は、研究の上で努めて「客観的」であることを自らに課している。しかし、客観的・中立的と思われている「統計データ」が実は「社会の生産物」であり、統計を生み出す側の価値観を色濃く反映しているとしたら、どうだろうか。は、そうした統計の本質に気づかせてくれる最近の好著である。は、私が18歳で出会い、自らのアイデンティティを形成するのを助けてくれた本である。「悩みのない善人」よりも「悩みを抱えた悪人」の方が、神の救済の対象に近いと主張するカトリック作家の本である。多感だった青春時代、私はいつも自分を世界の外縁に追い詰め、傷つけてばかりいた。



『現代イギリスの政治算術 統計は社会を変えるか』
 D. ドーリング, S. シンプソン 編著
 北海道大学図書刊行会 2003



『二十一の短篇』
 G. グリーン 著
 青木雄造 瀬尾裕訳
 早川書房 1980
 (クレアム・グリーン全集 13)

『民主主義の論じ方 論争の政治』
 杉田敦著 筑摩書房 2001
 (ちくま新書 294)



『9・11 ジェネレーション』
 岡崎玲子著 集英社 2004
 (集英社新書)

皆さんに読んでほしい本、本当は、藤沢周平の手になる時代小説と言いたいところですが、おとなしく次の2冊にしました。まず、杉田敦『民主主義の論じ方 論争の政治』(ちくま新書)です。「改革」の時代の中で、日本の法、法制度の行方は多様な視点で考えられています。その方向性はどうかやってみられるのか。意見の対立や争点がある場合に物事を「民主的」に決めるとはどういうことか、本書を紐解いて一度は考えてみるのもいいのではないのでしょうか。もう一冊は、岡崎玲子『9・11ジェネレーション 米国留学中の女子高生が学んだ「戦争」』(集英社新書)です。いま、「戦争」は、自衛隊は、平和は?これらの問題について、歴史的事件を肌で感じている「9・11」世代(?)であるあなた方は、考える必要があるのではないのでしょうか。

(ひらた かずいち：法学部教授)

法学部



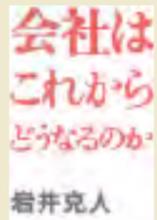
平田 和一

経営学部



矢澤 清明

会社の利潤の源泉は何か。それは、原理的に言えば「差異性」に他ならない。ところがポスト産業資本主義の時代に入って、「差異性」の内容は大きく変化した。「差異性」を生み出す力が、従来のおカネからイノベーションを創出する情報や知識の活用能力にシフトしたのである。この状況は、会社のあり方や働き方も変えていくことになる。今後、どのような組織デザインが有望なのか、会社とどう付き合えばいいのか。会社に関心を持つ人すべてに、本書の一読を勧めたい。二冊目は、六人の天才(ガイゲ ヌツタウ他)の生涯を病蹟学の立場から描いた精神医学的伝記である。学生の頃本書を読んで、「問題を解決するのではなく問題自体を解消させる」というグイトゲンシュタインの方法論に目から鱗の驚きを味わった。苦渋な探究を続けた本人にとって、方法論その物が一種の救いとなったはずである。知的創造活動には、内的危機や個人的問題を知的等価物に置換する機能があると言う。つまり、知的創造を通じて「世界が見える」ようになることは、ある種の精神的救いやカタルシスをもち、更にそれ自体が希少であることにより、人をその挑戦へといざなうのである。先人の歩みは、我々にとっての参照モデルである。時には、天才達の実像を知るのも悪くはない。貴方は、彼等の軌跡に何を感ずるだろうか。



① 『会社はこれからどうなるのか』
 岩井克人著
 平凡社 2003



② 『天才の精神病理 科学的創造の秘密』
 飯田真 中井久夫著
 岩波書店 2001
 (岩波現代文庫 学術 57)



図書館委員会は、図書館長のほかに教員21名と図書館職員4名(平成16年度)で構成されており、図書館の運営や図書資料収集の基本方針など、図書館活動の重要な事項について審議します。つまり、図書館委員は、利用者や図書館をつなぐ重要な役割を担っていることになります。

このページでは今年度の図書館委員の先生方に選んでいただいた、学生の皆さんに読んでほしい図書を紹介いたします。人との出会いと同じように、一冊の図書との出会いが、あなたの人生を変えるかもしれません。

商学部



赤羽 新太郎

21世紀の経営問題のコアとして、あまり顧みられなかった企業の倫理問題が、ガバナンスとともに世界的に問題にされてきている。最先端であった巨大企業エンロン社の倒産、三菱自動車のハブ欠陥の隠蔽、そして商品の虚偽表示など、ビジネスの根幹が揺らいでいる。21世紀における企業社会の方向を読むには欠かせない一冊である。魂魄をさらに磨くもう一冊、原著は、「The Catcher in the Rye」であるが、1951年にアメリカで出版されて、アメリカの若者によく読まれている。翻訳もここ10年で94刷というからかなり読まれている。「インチキ」や「いやらしいもの」には唾棄する価値観に少なからず共感がよせられているが、その「豊かさ」には大きなリスクも含まれるだろう。

(あかはね しんたろう：商学部教授)



『企業倫理と企業統治 国際比較』
 中村瑞穂編著 文真堂 2003



『ライ麦畑でつかまえて』
 J.D. サリンジャー 著
 野崎孝訳 白水社 1984
 (白水Uブックス 51)



『対象喪失 悲しむということ』
 小此木啓吾著 中央公論社 1979
 (中公新書 557)



『フロイト精神分析入門』
 小此木啓吾 馬場謙一編
 有斐閣 1977
 (有斐閣新書)

学生諸君が進もうとする人生は、楽しみや喜びに満ちています。しかし、その一方、躓き、転び、倒れるのもまた人生です。このなかで諸君は自分の生き様を見出してゆくのです。今回私は、以下の2冊の新書本を「自分探し」のために推薦したいと思います。1冊目は『対象喪失』(中公新書)です。幸福や喜びに寄り添うように、人生には様々な悲しみに出会います。中でも近親者の死や愛の喪失、失職など、日頃慣れ親しんだ対象を失ったとき、私たちはその悲しみにどう耐えるのか、人間にとって永遠の課題です。この課題に取り組んだのが本書です。2冊目は『フロイト精神分析入門』(有斐閣)です。精神分析学は、人間を主体とする学問領域に深い影響を与えていると共に、私たち個人の心の世界(無意識)を探求する学問です。本書を通して自分探しの視点をいただきたいと思います。

(いぬい よしすけ：文学部教授)

文学部



ネットワーク情報学部

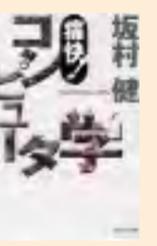


巖 基珠

最近、韓国について興味を持つ人が増えています。韓国の大学生がどのような本を読んでいるか知りたいと思いませんか。ここに紹介する『咸錫憲著作集』は、韓国の大学生なら誰でも知っている人の本です。著者の咸錫憲(ハム・ソクン：1901～89)は、非暴力人権運動をし、韓国のガンディーとも言われる思想家、民衆運動家です。1924年から28年までの日本留学中、内村鑑三の影響を受け、後に韓国のキリスト教指導者としても活躍しました。無教会主義を主張した点では日本とのかかわり先見られます。何事にもとらわれない自らの考え方を淡々と述べている彼の著作は、順序なく拾い読みしても色々人生を考えさせられるところがあります。特に『咸錫憲著作集』2に当たる『苦難の韓国民衆史』は、韓国でもっとも話題になったものでもあります。次は、分かりやすく読みやすいその編集の仕方が韓国にはなさそうに感じている一冊です。『痛快!コンピュータ学』は、コンピュータについての素朴な知識から展望まで分かりやすく解説した本です。いったん手に取ったら途中でやめられない魅力があります。ところが、あらゆる所にコンピュータを組み込んで全てコントロールする、ユビキタス化の予言を読んで、少々抵抗を感じたのは私がアナログ人間にすぎないということなのでしょう。皆さんの意見も是非聞きたいところです。

(オム キュウ：ネットワーク情報学部助教授)

『咸錫憲著作集』
 咸錫憲 著
 新教出版社 1991-



坂村健著 集英社 2002
 (集英社文庫)

MAGAZINEPLUS 日外アソシエーツ

MAGAZINEPLUSとは?

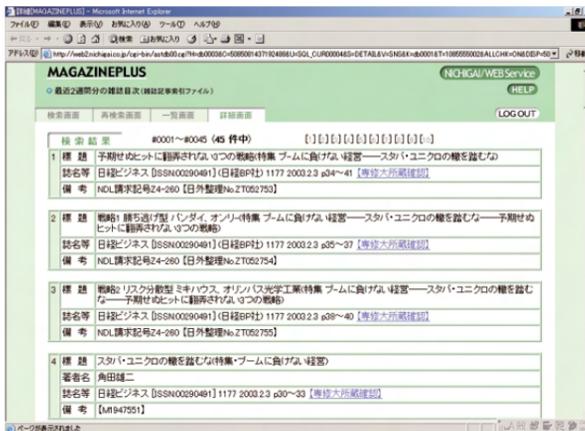
「国立国会図書館・雑誌記事索引(1975-)」に、人文社会科学系の年次報告書や学術論文を加えた国内最大の雑誌論文情報データベースです。雑誌に掲載された論文や記事について、掲載された雑誌名、著者名、ページ数、発行年等を調べることができます。

どこで使えるの?

本館4F AVプラザ、神田分館、法科大学院分館の情報検索コーナー、研究室等の学内LANに接続されたパソコンで利用できます(同時に4アクセスまで利用可能)。図書館ホームページの「外部データベース」の項からアクセスしてください。

使い方

「検索条件入力」画面に「キーワード」、「雑誌名」、「著者名」などを入力して検索します。何件かヒットしたら「一覧表示」「詳細表示」と表示させましょう。「詳細表示」の中から読んでみたい記事が見つかったら、「専修大所蔵確認」ボタンをクリックすると本学図書館の所蔵を確認することができます。ただし、「専修大所蔵確認」ボタンがないデータもあります(「誌名等」にISSN番号の表示がないもの)。その時は、OPACの「書名」にMAGAZINEPLUSで表示された「誌名」を入力して検索してください。



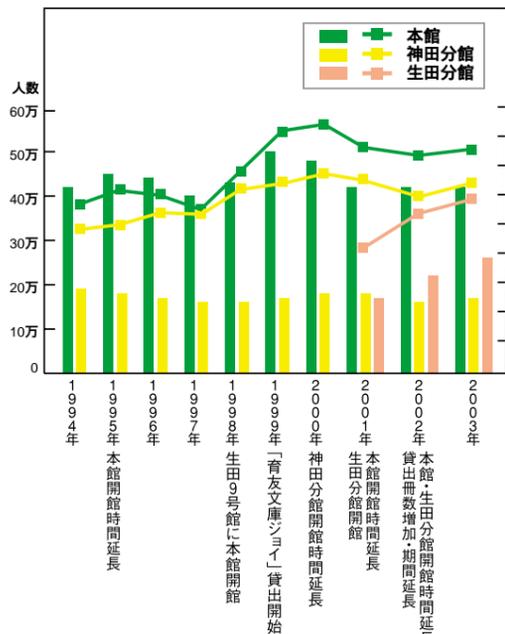
「詳細表示」画面

<キーワード>
ユニクロ
経営
戦略

「検索条件入力」画面

統計から見る図書館の利用状況

過去10年間にみる学内者の入館者延数(棒グラフ左目盛)と学部学生一人当たりの貸出冊数(折れ線グラフ右目盛)

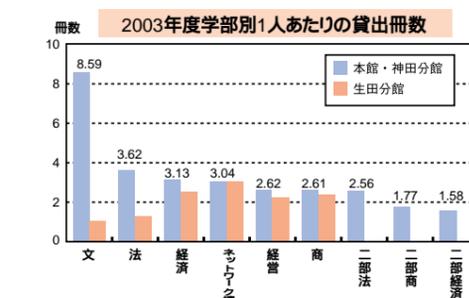


過去10年間の学内者による入館者延数と学部学生1人当たりの貸出冊数、および2003年度の学部別1人当たりの貸出冊数をグラフで表しました。

入館者延数について、神田分館は大きな変化はありませんが、本館は1999年を頂点に減少傾向にあります。それに対し、学生に親しみやすい図書を集めた生田分館は、急速な伸びを示しています。

学部学生1人当たりの貸出冊数は、本館、神田分館とも4冊近くまで増加し、3館を合わせた貸出冊数は5.9冊になります。私立大学の平均は、7.2冊(『日本の図書館』日本図書館協会編 2003年により)なので、本学学部学生の貸出冊数はやや少なめです。また利用の目的は、試験などの勉強より、読みもの的な図書の利用が増加しているようです。

学部別の本館・神田分館での貸出冊数は、ネットワーク情報学部、経営学部や商学部の冊数が少なく、情報源を図書ではなく電子媒体による新しい情報が必要としているように推測されます。



図書館では、これらを参考に新しい情報をどのようにして導入していくかを課題とし、利用者が求める図書館を目指していきたいと思ひます。

専修大学図書館 本館

「人と時代と経済学 - 現代を根源的に考える -」

期間：平成16年6月1日(火)~7月31日(土)
場所：専修大学図書館3階ブラウジング・プラザ

専修大学は、1880年(明治13年)に経済学と法律学の専門教育課程を組織的に日本語で教える専門学校として創立されました。当時の経済科では、創立者である田尻稲次郎が貨幣論や銀行史などを、駒井重格が経済要論や経済考徴などの講義を担当し、西洋の新しい経済学を日本語で教授しました。英語の専門用語について適切な訳語を探し出し、無ければ作

り出し、その日本語の意味を学生にもわかりやすく説明していくという大変な作業でした。以来、経済学科は今日まで125年という長い歴史と伝統を誇っています。

図書館では専修大学経済学部経済学科公開講座にあわせて、アダム・スミスなど偉大な経済学者6人の著作とともに、本学創立者であり、経済学の発展に深く寄与した田尻稲次郎、駒井重格の著作を展示しています。



主な展示資料

- ・アダム・スミス『富国論』雄松堂 1993 復刻版
- ・マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』未來社 1994
- ・田尻稲次郎講義『外国為換論』専修大学大学史資料室 2000
- ・駒井重格講義『経済要論』専修大学大学史資料室 2000
- ・Smith, Adam: An inquiry into the nature and causes of the wealth of nations, *Wirtschaft und Finanzen*, 1886, (Klassiker der Nationalökonomie)
- ・Weber, Max: Die protestantische Ethik und Geist des Kapitalismus, *Verlag Wirtschaft und Finanzen*, 1992, (Klassiker der Nationalökonomie)

生田分館

「第3B閲覧室」の開放



生田分館では、視聴覚室として利用者に提供している「第3B閲覧室」をもっと学生の身近な図書館施設の一部として利用してもらうために、月曜日から金曜日の12時10分から12時50分までNHKのBS番組を放送しています。

第3B閲覧室の席数は50席ほどあり、ミニシアターのような雰囲気を楽しむことができます。各種サークルでの利用や視聴覚資料を用いた研修などにも利用することができますので、希望する学生は生田分館のカウンターで申し込んでください。

神田分館

利用サービス係から

神田分館は法令・判例の図書資料のほか、法律に関する情報検索のデータベースが充実しています。利用にあたって分からないこと、困ったこと、また蔵書を検索するOPACの使い方などについて、私たちがお手伝いしますので、気軽にカウンターで声をかけてください。



図書館インフォメーション

< 図書館カレンダー >

7 月							8 月							9 月							10 月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4						1	2
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23
25	26	27	28	29	30	31	29	30	31					26	27	28	29	30			24 31	25	26	27	28	29	30

開館時間：無印 本館・生田分館 月～金 9:00～21:00(土曜日は19:00)
 神田分館・分室 月～土 9:00～22:00
 印 本館・生田分館 月～金 10:00～19:00
 神田分館・分室 月～金 10:00～19:30

休館日：
 開館時間の変更および臨時の開館日、休館日は、その都度ホームページや掲示で案内します。

お知らせ

「図書館アンケート」ご協力をお願い！

図書館では、3年次生全員へのアンケート調査を実施しています。図書館をよく利用する人も、ほとんど利用しない人からも率直な意見を聞かせていただき、図書館の運営に反映していきたいと考えています。皆様のご協力をお願いします。なお、調査結果は「図書館だより」「図書館ホームページ」等で公表する予定です。

■ 夏期特別貸出

貸出対象者：学部学生
 取扱期間：平成16年7月12日(月)～8月27日(金)
 冊数：10冊まで
 返却期限日：平成16年9月17日(金)

■ オープンライブラリーのお知らせ

図書館(本館・生田分館)では毎年、夏期休暇期間中に中学生、高校生及び大学受験生を対象に「オープンライブラリー」を開催しています。
 期間は、休館日を除く8月2日(月)から8月31日(火)までです。

■ 学部試験前における日曜開館について

学部試験前の日曜日に図書館を開館します。図書資料の閲覧、複写、貸出・返却及びOPACの利用ができます。

対象館：本館(AVプラザを除く)および神田分館
 開館日：平成16年7月18日、25日
 :平成16年12月12日、19日、26日
 :平成17年1月9日

開館時間：10時～17時

■ 「図書館案内」のお誘い

図書館では、ゼミ、授業単位の図書館案内(基礎・応用コース)、情報検索講習会等を随時受付けています。卒業論文のための講習会など、オーダーメイドによる特定の資料に関する案内なども行います。

期日、時間帯などご希望に応じますので、本館、神田分館のカウンターにご相談ください。

■ 情報検索コーナーがリニューアル！ 9月1日予定

今回のリニューアルでは、生田分館にも情報検索コーナーを開設いたします。4月にオープンした法科大学院分館も含め、学内の図書館4館全てにコーナーが設けられることになります。パソコンの性能向上に加え、CD/DVD-ROMライブラリ装置も導入し、これにより学内の図書館全てでCD-ROM等の相互検索が出来るようになります。

専修大学図書館だより 第53号

発行日：2004年7月1日

編集・発行：専修大学図書館 館長 大庭 健

専修大学図書館 本館	神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1	〒214-8580	Tel.044-911-1274
生田分館	神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1	〒214-8580	Tel.044-911-7138
神田分館	東京都千代田区神田神保町3-8	〒101-8425	Tel.03-3265-8339
法科大学院分館	東京都千代田区神田神保町3-8	〒101-8425	Tel.03-3265-6914
神田分館7号館分室	東京都千代田区神田神保町3-8	〒101-8425	Tel.03-3265-6366

専修大学図書館ホームページ URL : <http://www.lib.senshu-u.ac.jp/>